

「さがみはら 見る・知る探検隊」だより

相模原市 まちなみウォッチング

第7号 平成20年9月

編集・発行 相模原市 都市建設局 まちづくり計画部 街づくり支援課
〒229-8611 相模原市中央2-11-15
電話：042-769-9252（直通） F A X：042-754-8490
Eメール：machidukuri@city.sagamihara.kanagawa.jp

事務局より

今回のまちなみウォッチングは、市域全域を4回に分けて視察し、従来のまちのイメージなどのワークショップのほか、特徴的な景観、景観を良くしていくために必要なことなどについても意見交換を行いました。本市では合併で加わった広大な豊かな自然環境の特色を生かすため、都市景観形成基本計画の見直しや景観法に基づく景観計画の策定に向けて検討を行っており、今回皆さんからいただいた意見は、この計画に反映していきたいと考えております。

今後とも、本事業や関連事業への積極的なご支援、ご参加をよろしくお願いいたします。

相模原市全域を対象に開催

平成20年7月から8月にかけて、市全域を対象に「まちなみウォッチング」が延べ4回にわたり、市民14名と、大学から10名の参加を得て行われました。

「まちなみウォッチング」は、本市の景観形成に関する指針を示した「都市景観形成基本計画」における基本目標のひとつ、「市民との協働による景観づくり」を実践していくためのプログラムの第1ステップとして、まちに対する共通認識を育む目的で行われてきました。平成13年度から毎年順に、「橋本駅周辺」、「相模大野駅周辺」、「相模原駅周辺及び矢部駅周辺」、「上溝駅周辺」、「相模川周辺」、「津久井町、相模湖町」、「城山町、藤野町」を対象に行われてきており、今回が8回目となります。

【市内の主要な地域、地区のウォッチングとワークショップ】

今年度のまちなみウォッチングは、旧相模原市、城山町、津久井町、相模湖町、藤野町の全域を対象に4日間に分け、開催しました。合併した相模原市の特徴的な景観や、まちの景観を良くしていくためにはどうしたら良いか？という視点から、『「地域の特徴」、「地区の特徴」を実際に感じ、考えてみよう！』をテーマに開催しました。

4日ともに、午前中はウォッチングし、午後はその日に視察したポイントについて、以下のような流れでワークショップを行いました。

- ①歩いたルートメモ・写真の整理—3つのグループに分かれ、その日に記録したメモや写真を整理し、参加者が各々意見を発表しました。
- ②まちのイメージのまとめ—3つのグループごとに、見学した地域などについて、まちのイメージとなるキーワードや、改善の方向性などについて、意見交換しながら模造紙にまとめあげました。
- ③グループ発表—各グループでまとめた景観形成の方向性などを、グループごとに発表しました。



出典：相模原市・城山町合併協議会、相模原市・藤野町合併協議会発行パンフレット『新しい相模原市を知ろう！』より

まちなみウォッチング開催風景

1日目 まち歩き（市役所、木もれびの森、相模大野駅周辺、麻溝公園など）と、ワークショップ

★朝、9時半に市役所に集合し、市役所展望台からの景観を眺め、バスの中でガイダンスを聞きながら、木もれびの森に到着、森の中をウォッチング。次の相模大野駅周辺では中央公園から駅までの間を見て歩き、再びバスで小田急相模原駅周辺などを經由し、相模原麻溝公園の展望台と八景の棚で、斜面緑地のみどりや、相模川、新磯野・麻溝台地区などへの景観を眺めました。その後は、バスの中から無量光寺などを見ながら、市役所近くの環境情報センターに戻り、午後にワークショップを行いました。



2日目 まち歩き（鳥居原ふれあいの館、青根緑の休暇村、芸術の道、沢井地区など）と、ワークショップ

★2日目は市役所からバスで県立津久井湖城山公園に向かい、園内を見学後、津久井レイクタウンなどを經由し、鳥居原ふれあいの館に到着。宮ヶ瀬湖への景観を眺めた後、青根緑の休暇村にバスで移動し、歩いてウォッチングしました。その後はバスの中から、芸術の道（名倉地区）で数々の屋外彫刻と、沢井・和田地区で山々のみどりと集落をウォッチングしました。午後のワークショップは、近くの藤野総合事務所で行いました。



3日目 まち歩き（橋本駅周辺、境川、相模原北公園、相模川自然の村、水郷田名など）と、ワークショップ

★3日目は、市役所からバスで橋本駅周辺に向かい、駅周辺や都市拠点地区を車中から見学後、宮上小北付近で境川を歩いて見学。その後バスで、東橋本の長屋門や工業団地などを經由し、相模原北公園内の様子をウォッチング。次の相模川自然の村では、相模川への眺望や花壇、古民家などを歩いて眺めました。その後、小倉地区を經由し、バスから対岸の段丘を眺めながら、水郷田名に到着。新堀用水、相模川ふれあい科学館などをウォッチングし、環境情報センターに戻り、午後にワークショップを行いました。



4日目 まち歩き（小松・城北里山地区、県立津久井湖城山公園、尾崎号堂記念館、小原宿本陣など）と、ワークショップ

★4日目は9時半に市役所に集合後、バスで移動。小松・城北地区では歩きながら里地、里山をウォッチングし、金刀比羅宮では市域東部などの景観を眺望。次の県立津久井湖城山公園の水の苑地では、園内の様子や津久井湖対岸を見学。尾崎号堂記念館と小原宿本陣では、それぞれの建物の内外をゆっくり見学しました。その後は、バスでJR相模原駅周辺を經由し、県立相模湖公園で、相模湖や石老山などへの景観を眺めました。午後は、津久井町の津久井保健センターでワークショップを行いました。



参加者がまとめた「特徴的な景観」と「まちの景観を良くしていくために必要なこと」

～今回のまちなみウォッチングでは、4日間にかけて3つのグループに分かれて、視察場所に対する意見などについてワークショップを行いました。ここでは、相模原市の特徴的な景観、良くしていくために必要なことについて、ワークショップであげられた意見の概要をご紹介します～

相模原市の特徴的な景観

<都市的な景観>



<骨格的な景観は>.....山、相模川、段丘崖、湖、茶畑などの自然



<自然的な景観>



<歴史的な景観>



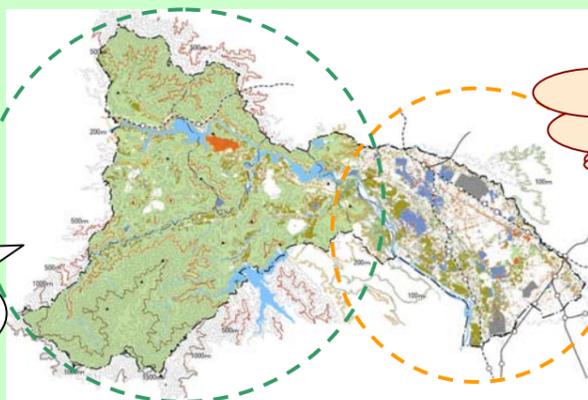
<眺望景観>



イメージと特徴

・相模原にはへそがない
・都市と自然が調和している

<津久井地域のイメージ、特徴>
・みずとみどり、歴史
・平地が少ない (畑地も少ない)



・川の広がりによって見え方や特性が変わる
・丹沢、多摩丘陵への眺めが良い

<旧相模原市域のイメージ、特徴>
・商業地や工業地
・平坦で自転車が走りやすい
・郊外の都市のイメージ (沿道利用店舗など)

まちの景観を良くしていくために必要なこと

<まちのイメージをつくる>

残すべきものを残す
明らかに改善が必要なものを直す

歴史的な資源や手がかりが少なく、良い景観の規範がない (歴史が浅い)

色々な視点から多くのご意見を頂きました。

<目的を決め計画的に進める>

案内サインの設置 (色、形態の工夫するなど)

芸術は難しいのでコンセプトなどを説明すると良い

用途の混在をさげ、メリハリあるまちづくりを行う

住宅しかないまちにしない

建物の色と高さの制限

古いまち並みの背後にマンション建つのは良くない

広告物の制限

文字量や情報量が多い

・彩度を下げる
・山への眺めに配慮する

保全・活用・手入れ・管理が大切

フィルムコミッションをPRする

収入を得る

電線類地中化を進める

ルールやマナーが必要

ゴミ捨てなど

利便性 (交通) の向上

<景観を知ってもらうためのPR活動>

資源の掘り起こしと要素のつなぎ

「水という資源」「歴史的な資源」をより知ってもらう

コースづくり、景観めぐり など

子供の参加、宿場町の歴史紹介 など

<協働による取り組みを進める>

企業の誘致なども必要

知恵を出し合う (国、県、市、市民、地元)

市、市民、学校の協働 (みどりの管理、ボランティアとの協働、表彰制度など)